

家 庭

スモークーパーレーでは、実に多くの人が働いている



「なんだ、また来たのか。どうして毎日写真を撮る必要があるんだ」。スモークーパーレーに通うようになって3日目、入り口にあるチェックポイントの責任者は、明らかに嫌な顔をするようになった。

しかし、ごみ収集車が走り回る現場での反応は全く違った。「やあ、また来たか。ここは居心地がいいかい」。顔見知りになると、気軽に声をかけてくれる。

そんな中、英語を流暢に話すジュンさん(47)と知り合った。「おれはアメリカの永住権を持ってるし、インディアナとフロリダではタクシーの運転手してたんだ」

彼の恋人、ルビーさん(32)はこれ



宇田 有三

までに3回、日本に出稼ぎに行ったことがある。群馬県の民宿で働いていたという。「日本と違って、フィリピンは暑いしょう」と

きどき、片言の日本語を口にする。

最初、私はジュンさんの話を冗談だと思っていた。だが彼の家遊びに行き、米国の永住権証やインディアナ州発行の免許証を見せてもらい、びっくりした。彼の話は本当だった。

「じゃあ、なぜここでスカベンジャー（ごみ拾い）をしてるんだ。アメリカに戻って仕事を探した方がいいんじゃないのか」「ルビーと一緒にアメリカに行きたいから、その手続きをしてもらっているのさ」

しかしルビーさんは、アメリカ行きの話はあまりしたくないらしい。実は彼女には、日本人との間に2人の子どもがいる。

「日本のだんなはどうしたの？」

「突然、連絡がこなくなった」

その日本人から送られた最後の手紙を見せてくれた。ぼろぼろになった紙片には、東京の住所が書かれていた。（フォトジャーナリスト）

突然途絶えた東京からの手紙